

鎌ヶ谷市施策評価表(事後)

施策の名称	22快適な公園・緑地環境の整備		
施策のねらい (めざす姿)	市民と行政が一体となって自然の緑地を保全し、さらに緑の空間の創造に取り組んでいます。		
基本目標	2「自然と社会が調和する環境共生都市」をめざして	施策担当マネージャー	都市建設部次長
政策	22快適な暮らしの環境をつくります	マネージャー氏名	貞方 敦雄

I 改革・改善内容(=施策をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	公園や緑地を適正かつ効率的に維持管理するため、市民が積極的に参加できる仕組みのさらなる拡充と、長寿命化事業に基づく、施設の計画的な修繕・更新に確実に取り組んでいく。	③改革・改善内容	今後増えていく公園や緑地を効率的に維持管理するため、自治会等へ説明を実施し、地域の方々が積極的に参加できるよう、さらなる拡充をしていくとともに、長寿命化事業に基づき、計画的に施設を修繕・更新し、予算の平準化を図りながら取り組んでいく。
②①に基づく取り組み結果	公園サポーターを増員する為に、この制度を理解してもらえるように広報等を活用して市民の皆様へ周知できるようにした。公園施設長寿命化事業により、市制記念公園、南初富公園及び藤台中央公園の遊具の更新を行った。		

II 施策の目的・概要

①目的	対象	都市公園 ふれあいの森	意図(対象をどうするのか)	整備、適正に維持管理することで、安全性や快適な都市環境を確保する。
②施策の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・都市公園やふれあいの森の計画的な整備 ・市内の良好なみどりの保全 ・都市公園やふれあいの森の適正な維持管理 			
③環境分析(状況変化や今後の見込み・市民意向など)	都市公園やふれあいの森の整備、施設の安全性の確保に対する市民要望は高い。都市公園等の増加や老朽化に伴い維持管理費は増加傾向にある。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成29～30年度の施策の成果	東道野辺ふれあいの森公園の実施設計及び整備を行った。公園施設長寿命化事業により公園遊具の更新を実施した。桜×鎌ヶ谷＝魅力アップ事業で市制記念公園に桜を8本植樹した。人件費の高騰や材料費の高騰により、想定していたよりもコストが上昇している。						
②施策成果指標	指標名称		単位	平成28年度	平成29年度	平成30年度	目標値(2年度)
	i	市民一人あたりの公園面積	m ² /人	2.9	3.0	3.0	3.8
	ii						
	iii						
③基本事業成果指標	i	市民一人あたりの公園面積	m ² /人	2.9	3.0	3.0	3.8
	ii	公園等サポーター数	人	34	31	31	42
	iii						
	iv						
	v						
	vi						
④施策の事業費	平成29年度決算	平成30年度決算	市民一人あたり事業費(30年度決算)	令和元年度予算			
事業費(千円)	293,275	326,566	(単位:円)	2,986 円	472,245		

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	用地の取得や老朽化した施設の更新が必要であり、また、公園の維持管理に関する市民からの要望が非常に多く、さらなる財源の確保が必要である。		
②総合評価	4未達成	③総合評価の理由	東道野辺ふれあいの森公園の整備などにより公園面積が増加したものの目標値の達成には至らなかった。引き続き公園整備に努めていく。

V 今後の方向性

①施策の方向性	↑拡充
②上記方向性の説明	鎌ヶ谷一丁目ふれあいの森の用地の買戻し及び丸山三丁目ふれあいの森の先行取得を行い公園面積の拡大を進める
③特に重点化する事務事業	街区公園整備事業